



老人保健施設 サンタマリアニュース

発行日：2011年4月
発行責任者：永井 敏也
発行者：広報委員会

シスターのことば

『神は、私たちにご自身を現された』

私の青年時代、映画の画面は小さかった。シネマスコープになった頃「十戒」という映画が上映され、鑑賞した。横幅が広く迫力を感じた。この後、旧約聖書を読む機会に恵まれ、映画の場面と旧約聖書の出エジプトが重なり合い、歴史の流れと真実が語られる中に命の叫びを聞き取る勇気を貰った。年を重ねてみて、神は時代を経た今も共にいて語りかけ、支え導いてくださるのを感じます。

神による救いの歴史は、全人類を包含する者ですが、全人類に対する救いの意志を明白にするために、神はまずイスラエルという一つの民族を選ばれました。言葉と行いによって、ご自分を彼らに啓示し、全人類の救い主イエス・キリストが彼らのうちに生まれるための準備を行われました。この次第は、イスラエル民族の歴史として、旧約聖書に描かれており、そこには、行動する神、語る神、共にいる神のことが述べられています。

父なる神は愛の神です。神の永遠のいのちは愛そのものです。そして、神の愛に形を与え、私たちの目に見えるようにしてくださったのが、イエス・キリストです。神の愛がどれほど大きいかはイエス・キリストの歴史の中に見ることが出来ます。

イエス・キリストは父である神を人々に次のように示された。

「空の鳥を見よ、鳥は種まきも刈り入れもせず、また倉に納める事もしないが、あなたがたの天の父はこれを養ってくださる…」(マタイ6、26)、

「天の父は悪人の上にも善人の上にも太陽をのぼらせ、また正しい者の上にも正しくない者の上にも雨を降らせてくださる。」(マタイ5、45)

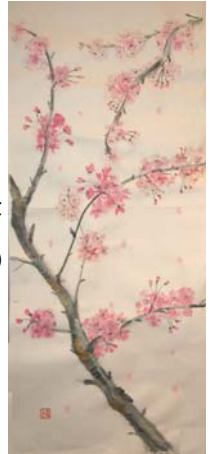
「天の父」こそ、ただイスラエルの民ばかりでなく、野のゆり、空の鳥に至るまでありとあらゆるものの生命の源であることをイエスは教えてくださった。

私たちひとり一人は神に似せて創られたユニークな存在です。ひとり一人にはその人の歴史があります。その人が生きて来た存在に尊厳をもって接する敬愛の心を養いたい。

ひとり一人が語る言の葉に心の耳を傾けると、互いの心を通わせ合う事が出来ます。そこにはユニークな宝石が光輝を放っています。

「神の言葉と秘跡」ペトロ・ネメシエギより抜粋

カトリック社会事業家族相談室 シスター 高橋順子



利用者様の作品

やわらか食

4月になり、新年度も始まりました。それに合わせて利用者様に提供させて頂いています。食事でも今まで以上に軟らかく、美味しく食べてもらえるように新たに“やわらか食”を始めました。

“やわらか食”と聞いて、どのような食事を想像されるでしょうか。

今までの食事の形態では、噛みづらい、飲み込みづらい方には細かく刻んだり、ミキサーにかけて食事をお出ししてしていました。味は普通の食事と同じなのですが、見た目が悪く、何を食べているのかが分かりづらい食事でした。食事介助をする職員も「今日の食事は何？魚なのか肉なのか分からない。」と、よく言われました。この様な食事では美味しく食べる気持ちにもなれないと思います。食事は利用者様をはじめ職員も楽しみにしています。その楽しみが形を変えてしまうことで無くなってしまっていました。歯が無くても噛める、食材が何か分かる、見た目にも美味しく見える。もちろん、食べて美味しいのが食事です。

“やわらか食”を始めるに当たり、去年の10月から準備をして来ました。普通の食事と同じように食材が分かり、見た目にも美味しく、楽しみが持てるような食事を提供することを目標にしました。その為、特に気を付けた事は食事の硬さと味です。調理方法や食材の割合など試行錯誤のうえ、ようやく利用者様にも提供できる形に成りました。魚は魚らしく。肉は肉らしい形。味はもちろん、見た目にも美味しく見える食事です。

食事、食べることは、生きる上での楽しみです。食材により季節を感じ、色どりで食欲が増します。その楽しみが、“やわらか食”を導入することでより多く感じられ、美味しく食べて頂けたら幸いです。

この“やわらか食”のネーミングは、実際に食事を食べてもらい、サンタマリアの職員全員で考えました。食事の形態が分かりやすい名前です。

利用者様が施設生活を少しでも楽しく過ごして頂けるように、これからも新しい事に取り組んでいきたいと思えます。

管理栄養士 坂口里美



ほうれん草のおひたし



白身魚のかぶら蒸し



カレー



おでん



魚のムニエル・トマトソースがけ、
筍と蒟の煮物、
海藻サラダ

運動会：平成22年10月13日（水）

白熱した競技と応援合戦、今年も盛大に行われました



職員の障害物競走



ボーリング



玉入れ



優秀者の表彰

外出レクリエーション：平成22年10月27日（水）



愛知牧場へ出掛けました

防災訓練：平成22年11月10日（水）



初期消火訓練、
避難訓練を行いました

可愛らしいお芝居
「浦島太郎」



幼稚園児慰問：平成22年10月27日（水）

どら焼きを作りました



おやつ作り：11月25日（木）

クリスマス・ミサ：平成22年12月22日



神父様からお祝いのクッキー
が配られました

餅つき：平成22年12月29日（水）



職員が力を合わせ
餅をつきました

正義の味方「サンタマース」
と一緒に鬼退治



節分（豆まき）：平成23年2月3日（木）

部門紹介

看護部門に求められる役割

看護部門では現在常勤職員と非常勤職員14名で各フロアの受け持ち担当と処置係に分かれて看護業務を行なっています。

施設の看護職にとって第一義的な役割は、健康管理です。慢性疾患をもつ利用者様の健康管理はもとより日常生活機能の維持を図り、疾病や合併症を予防することができるよう援助するために日常生活に密着したアプローチが必要だからです。

～ 看護職が行なう健康管理に関する機能 ～

- ①疾病予防と健康管理 ②症状や苦痛の緩和、手当（診療の補助を含む）
- ③病状の変化の予測と悪化防止 ④利用者様の日常生活能力の維持を目指す
- ⑤リハビリテーション看護 ⑥健康教育の実施 ⑦精神的支援 ⑧緊急時の対応

看護職による上記のサービスが十分に行なわれることによって利用者様全体の健康レベルの維持、回復を図ります。利用者様が疾病や障害を乗り越えて生活の中に喜びを見いだすことができるように利用者様を支え、励ましていく事が非常に大切だと考えています。

また、結果として質の高い生活を維持出来ることにより在宅復帰を実現する役割の一部を果たすと考えています。

私たちは、利用者様によりよい生活を送って頂けるよう日々頑張りますので何卒よろしくお願い致します。

看護部門 看護師長 川原清子



サンタマリアの前施設長 医療功労賞受賞

平成22年3月10日、上杉もと前施設長が、南米パラグアイでの16年間に及び診療活動の功績により、読売新聞主催の第39回医療功労賞・海外部門を受賞しました。平成22年2月28日に掲載された読売新聞記事を紹介させていただきます。



「パラグアイの人たちのために一生をささげよう」と、62歳で海を越えた。以来16年間、南部の町ピラボの診療所を拠点に、貧しさのために治療をためらう人たちの回診を続けた。

帝国女子医学薬学専門学校（現・東邦大）を卒業後、眼科医になった。戦時中、修道女会が運営する下宿で暮らしたのがきっかけで洗礼を受け、33歳で修道女の道に。海外支援に向かう先輩らを見送りながら、「自分もいつかは」と思い続けた。「熱意さえあれば、年齢は関係ない」と修道女会の後押しも受け、南米への赴任を決意した。

回診ではジャングルを縫うように歩き、廃屋で一夜を過ごしたことも。白内障を患った高齢女性の言葉は忘れられない。「手術しましょう。お金はいりません」と伝えると、「息子たちが面倒を見てくれるだけで幸せ。私の分では他の人を診てあげて」。

体調を崩し、11年前に帰国。現在は、名古屋市内の老人保健施設で入所者の心の悩みを聞いている。「もう先端医療はわかりません」。穏やかな笑みをたたえつつ、「またパラグアイで奉仕したい」と背筋をピンと伸ばした。（中部社会部 山下昌一）

（この記事・写真等は、読売新聞社の許諾を得て転載しています。読売新聞2011年2月28日付）

平成23年4月新入職員

今年も4人の新人が入職しました。よろしくお願いいたします。

左から(介護福祉士、介護福祉士、介護福祉士、支援相談員)

社会福祉法人 聖霊会 老人保健施設 サンタマリア
名古屋市天白区鴻の巣1-1101

電話 052(803)3611

FAX 052(803)7435

Email: info@santamaria.or.jp

ホームページhttp://www.santamaria.or.jp

次回発行予定 平成23年10月

